

公共図書館 展示

東日本大震災の衝撃
～図書館は希望の灯をともしせるか～

3月11日、東日本を襲った大震災。公共図書館への被災関連のアンケート調査結果や被災状況、また防災資料の展示をとおして、大震災に際して、埼玉の公共図書館はどのように行動したのか、市民への情報提供・支援の取り組みはどのように行われたのか、を紹介しました。

このほか、被災地での支援活動の参加者から映像を使った報告を行いました。

<アンケート調査 「東日本大震災・計画停電、節電対策」について>

県内の公共図書館を対象としたアンケート調査を実施して、震災や原発事故の図書館への影響をポスター形式で展示し、コメントを付したリーフレットを配布しました。



(アンケート調査)

アンケートの設問は以下の10項目です。

- ・施設や資料等に被害はありましたか

- ・震災による被害や計画停電の影響で、臨時休館や開館時間の変更等を行いましたか
- ・館内設備の利用の制限をしましたか
- ・集会行事等の中止・延期等を行いましたか
- ・東日本大震災による 避難者・避難所にどのような支援活動を実施しましたか
- ・今夏の節電に対応するため、開館日や開館時間を変更しますか
- ・節電対策として何を実施しますか
- ・震災に関連する情報を住民に提供する際、従来とは別の方法を取りましたか
- ・震災及びそれに関連することについて、資料展示を行いましたか
- ・震災及びそれに関連することについて、資料リストを作成しましたか

(平成23年7月実施)

アンケート調査結果からは、施設の維持に関わるような大きな被害は少なかったこと、むしろ原発事故による節電などの影響のほうが大きかったことなど、県下の図書館での被害状況の特徴が明らかになりました。

写真や震災関連のブックリストの展示などの具体的な展示のほかに、このような総括的な内容を盛り込んだことで、今回の震災の状況を後世へ伝えるデータのひとつとなったのではないのでしょうか。

<県内被災状況について>

東日本大震災発生直後の県内図書館の被災状況を記録した写真を収集し、展示しました。

どの図書館でも書架から本が飛散しており、県内各所で大きな揺れに見舞われたことがわかります。また、書架が大きく倒れた図書館もあり、震災の凄まじさを見せつけられると同時に、災害時の危機管理の重要性を認識することとなりました。

なお、会場に展示された写真は以下の図書館より提供を受けたものです。

埼玉県立久喜図書館、埼玉県立熊谷図書館、

川越市立中央図書館、熊谷市立熊谷図書館、熊谷市立大里図書館、さいたま市立北浦和図書館、学校図書館支援センター（さいたま市立北浦和図書館内）



（被災状況の写真展示）

<その時、図書館はどう行動したか>

地震直後の被害、引き続いての計画停電。図書館は開館時間の短縮や節電へ対応を迫られました。館内の掲示物から、当時の各館の対応を振り返りました。多くの図書館で節電のため、おはなし会や映画会などの催しが中止されました。また、OPACやインターネット端末が一部使えなくなるなどの影響もあったことがわかります。

<図書館での情報提供>

急激な生活の変化の中で、計画停電や自治体の発信する情報などの的確な情報提供は、図書館をはじめとする公共施設の重要な役割となりました。専用の掲示板を館内に設置したり、災害や原子力発電についての資料展示なども行われました。ブックリストも作られました。

中でも、県立浦和図書館での資料展示「いざという時のために一知って備える 埼玉防災資料―」（資料リスト「土地の昔、土地の現在を知るには」）では、古地図がその土地の歴

史を知る重要な資料であることを、メディアを通して一般の人々に広く知らせる契機となりました。自分の住んでいる土地が昔何に使われていたのか知りたいと、たくさんの人が図書館を訪れました。



（県立浦和図書館の資料展示）

<県内のハザードマップ>

自然災害に備えて埼玉県内の自治体では、国や県からの情報に基づいて、災害が発生する確率が高い地域を図で表したハザードマップを作成しています。

私たちは洪水や地震の際にどのような対応をとればよいのか？ハザードマップでは、私たちが災害から身を守り、逃れるすべや災害に巻き込まれない避難場所や避難経路の確認が行えます。



（自治体のハザードマップ）

この展示では、県内自治体のハザードマップを埼玉県の代表的な河川である利根川水系

公共図書館 展示

や荒川水系の流域に沿って上流から河口へと順に掲示しました。

また、インターネットで公表している自治体のハザードマップや地震防災に関するマップへリンクする「埼玉県の洪水ハザードマップ公表状況」のパネルを展示しました。

《国土交通省ハザードマップポータルサイト》
[\(http://disapotal.gsi.go.jp/\)](http://disapotal.gsi.go.jp/) より

このほか、地震による地盤沈下や建物被害に関連して、土地の歴史を調べる「迅速測図」や「地形図」、地形・地盤などの土地条件が表示されている「土地条件図」などを紹介して、日頃からの防災意識を高めて、誰もがいざというときに適切な対応をとれることを資料でご案内しました。

＜避難所・被災地への支援＞

原発の事故により、埼玉県内には福島県からの避難者も多く訪れました。さいたま市のさいたまスーパーアリーナには大規模な避難所が開設され、中には学校や図書館も設置されました。避難所の図書館での活動は、図書館員と読み聞かせボランティアによって行われました。



（避難所の「小さな図書館」）

子どもたちは本を読んだり、おはなし会や紙ヒコーキ、おりがみなどでひとときの日常生活を取り戻していたようでした。

避難所にできた小さな図書館の様子を写真パネルで紹介しました。

＜東北地方の図書館被災状況の写真展示と現地報告（HELP-TOSHOKAN より）＞

東北地方の被災状況をパネルにして、紹介しました。



（被災状況の写真展示）

過酷な状況は、ニュース映像で見たりする以上で、改めて被災された皆さんを思うとこみ上げるものがあります。

その中でも、少しずつ図書館が復旧され子どもたちの笑顔も見られる写真もあり、今回のテーマ「図書館は希望の灯をともしせるのか」を再認識させられました。

写真展示とあわせ、現地に行かれたふじみ野市立上福岡図書館の秋本敏さんを講師に迎え、HELP-TOSHOKAN 活動の報告会を2回開催しました。



（秋本敏さんの報告会）

状況は厳しいですが被災された中でも、図書館は必要な情報を提供していること、家族や自身も被害に遭われているのに、休みも返上して図書館の開館にむけて努力している職員がいることを知り、頭が下がる思いでした。